



城東図書館 2022年12月16日～1月18日実施

まちのひと 岡村 知栄子さんの紹介本リスト

主婦

ぼちぼちいこか	マイク・セイラー/作, ロバート・グロスマン/絵, いまえよしも/訳	借成社
<p>「ぼちぼちいこか」は関西弁で訳されている、ひょうきんなかば君のお話です。いろいろな仕事に挑戦するかば君ですが、どれもうまくいきません。とうとう「どないしたらええのんやろ」と途方に暮れた後に、ええことを思いつきます。</p> <p>情報社会の今、昭和生まれの私は目まぐるしい時代の進歩についていけません。横文字が理解できず文明の便利な道具も使いこなせません。焦燥感と不安で情けなくなります。でも、そんなとき思い出すのが、かば君の言葉です。</p> <p>「こらでちょっとひとやすみ。ぼちぼちいこかということや。」ほんまにええことを思いついてくれました。ありがとうございますかば君。できなくても大丈夫。あせらずゆっくりでええのよね。それぞれの人生だもんね。</p> <p>元気をもらえた私は、昨年生まれた孫にこの絵本をいつかプレゼントするつもりです。</p>		

てんぐさてんぐ	せなけいこ/作	童心社
<p>ボランティア活動を子ども達に始めたばかりの頃に苦い経験があります。勉強不足で、絵本に対象年齢があることに気が付きませんでした。ただもう楽しさを伝えたい思いだけでおたのしみ会に臨んでいました。</p> <p>選んだのはダジャレの入った暖かな色でカラージュされた『てんぐさてんぐ』でした。てんぐの子どもと猿や犬などのやりとりで「てんぐさ(天狗さ)」と「てんぐさ(天草)」、「てんぐだけだよ(天狗だけだよ)」と「てんぐだけ(天狗茸)」なんていう勘違いが面白いと紹介したのです。しかし、自分が楽しい内容と思っても、参加してくれた皆がこの言葉遊びを理解できたかと言えば……。シーンとなった空気はつらかったです。</p> <p>これまでこんな失敗を繰り返しながら、子どもたちのおかげで成長できた私です。昨年、活動を退きましたが、あっという間の30年でした。楽しかった！！</p>		

だれがいちばんはやいかな	マイケル・グレイニエツ/作, いとうひろし/訳	絵本館
<p>ある時、図書館の絵本コーナーで誰かが片付け忘れて本を棚に戻そうと手に取りました。なにげにパラパラめくったのが『だれがいちばんはやいかな』でした。動物たちの仲間に入りたいたつむりのお話です。駆け比べに参加して、のろのろとしか進めないのに休むことなく最後には一等で到着する、ひたむきな姿に感動します。オチもあり絵もはっきりして見やすかったので、お楽しみ会にピッタリでした。紹介すると集中してくれて「頑張れ！」「やった、一等や！！」の声も出ました。</p> <p>子ども達のキラキラ光る瞳や笑顔が大好きな私。同じ場所と同じ楽しみを共感できることは嬉しい限りです。そしてそれば、魔法の薬のごとく私を若返らせてくれて、一度味わえばやみつきになります。</p> <p>偶然見つけた一冊の絵本が気付かせてくれたのは、ボランティアをしていたのは私ではなく子どもたちだったということです。子どもたちに感謝ですね。</p>		

わすれられないおくりもの	スーザン・バーレイ/作・絵, 小川仁史/訳	評論社
<p>たった一人の姉が四年前に亡くなりました。両親の介護・旅行・ランチなど苦楽を共にした心強くて優しい姉でした。病が発見されてわずか9か月で急逝してしまい、茫然自失の私に親友が送ってくれた絵本があります。</p> <p>「わすれられないおくりもの」。題名と同じで、まさに忘れられない物でした。</p> <p>動物たちから慕われるアナグマのお話です。年をとり死が近づいたのを悟ったアナグマは恐れることなく状況を受けとめて、静かに去ります。動物たちは悲しんだ後に、アナグマから教わったことや、できるだけ見守ってもらったことを語り合います。もう一緒に行動することはできませんが、思い出は消えたりしません。悲しむことも大切ですが、尊い人を懐かしみ感謝することは何よりの宝物なんだと、動物たちを通して私は教わりました。誰しもいつかは必ず迎える死。その時が来たらアナグマのように、誰かの宝物になりたいなあと思います。</p>		

表示 4.0 国際 (CC BY 4.0)

転載等の際は “大阪市立城東図書館「まちのひと文庫」推薦文”との表記を入れてください

裏面に続く→

こだぬきタベタ	いとうひろし/作・絵	岩崎書店
<p>「好きな絵本は？」と尋ねられたら「こだぬきタベタ」と答えます。</p> <p>子ダヌキを食べたのではなく、タヌキの名前がタベタという、題名からウィットに富んだ伊藤寛さんらしい絵本です。おもしろいだけでなく、子どもを救うために自分達の命も惜しまない親心に胸がジーンとなります。人もタヌキも同じだなあとしみり感じていると、クシャミと共にねぼけまなこでタベタが戻ってくる。無事な姿に安心ですが、なんと眠っていたとは。あきれて笑っちゃいました。この展開も見事。</p> <p>子どもの成長を見守るのはとても楽しいことですが、子育て中はいろいろなことがうまくいかずイライラしたり、悩んだり、心配したりもしますよね。そんな時に絵本は笑いを誘い、ほっとできるひと時を与えてくれます。</p> <p>どうぞ皆さんにも癒される素敵な絵本の出会いが訪れますように。笑顔の毎日でいられますように。</p>		

大阪市立城東図書館

大阪市城東区中央3-5-45 06-6933-0350

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp/>